



ふれあいの丘天文館だより



★今月の天文情報★

●冬の星座に見る星の一生

冬の星座には、明るい一等星が7個あり、赤、白、黄、青といった色とりどりの星があります。冬の星空は一年中でもっとも華やかな夜空です。さらに「オリオン大星雲」や「すばる」といった、肉眼でも見える星雲や星団も華を添えてくれます。特に今年は「木星」が冬の星座の中にあり、より一層輝かしいものとなっています。

さて、星にも人間と同じように一生があることをご存知でしょうか。星は宇宙空間に漂うガスやチリが集まり誕生し、青年期を迎え、最後に爆発などを起こして死を迎えます。死を迎えた後、残ったガスやチリが宇宙空間に散らばっていきます。星は何十億年も時間をかけて誕生と死を繰り返していきます。

星の一生のドラマを冬の星空で見いきましょう。

★オリオン座の三ツ星の下に「小三ツ星」と呼ばれるぼんやりと白く輝いて見える「M42



オリオン座大星雲」があります。ガスやチリが広がっている場所で、星が次々に生まれており、「星のゆりかご」と呼ばれています。ここを望遠鏡で見ると、星雲の中に「トラペジウム」と呼ばれる生まれたばかりの星々を見つけることができます。

★オリオン座の三ツ星を西のほうに延ばしていくと、青白い星が数個集まっているところがあります。ここは、おうし座の背中にあたり、「すばる (M45 プレアデス星団)」と呼ばれています。若い星々の集まりで、望遠鏡では百数十個の星の集まりが見えてきます。「すばる」は、枕草子の中で「星はすばる・・・」と詠まれるなど、古くから親しまれています。

★オリオン座の右肩に輝く赤い1等星「ベテルギウス」は、大きさが太陽の数百倍もある年老いた星(赤色超巨星)です。近い将来、超新星爆発を起こすと考えられ、話題になっています。

★おうし座の角の先には、「M1カニ星雲」と呼ばれる星雲があります。年老いた星が超新星爆発した後の姿です。カニ星雲は、西暦1054年に超新星爆発をしたと明月記に記載されています。天文館に来られて、星の一生のさまざまな姿を観望し、宇宙の時間の流れに思いをはせてはいかがでしょう。

■問い合わせ

ふれあいの丘天文館 TEL (28) 3 2 5 4

URL <http://www.fureai-tenmonkan.jp/>

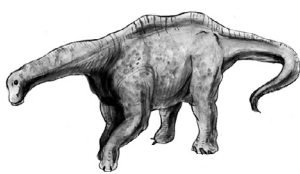
ふれあいの丘自然観察館だより

当館では、栃木県立博物館のご協力を得て、企画展「化石」を開催し、約230点もの化石・標本を展示しています。今回も展示中の化石のいくつかを展示資料をもとに紹介します。

●恐竜の骨の化石

アパトサウルスという草食恐竜の巨大な大腿骨の骨が展示されています。

これはさわることができる化石です。この恐竜は1億5千万年前(ジュラ紀)に生息し、体長が21m・体重30トンもあったと考えられています。北アメリカで発掘されました。



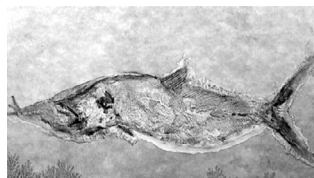
アパトサウルス



大腿骨の化石

○化石から過去の出来事を考えてみよう!

「カツルス」(ドイツ・ジュラ紀)という肉食の魚で、小魚をくわえた状態で化石になったものが右の写真です。よく見ると皮も肉もそっくり残っていることから、他の動物に襲われることなく化石になったと考えられます。



「カツルス」の化石

さあ、皆さんもこの展示品を観察しながら、この「カツルス」はどのようにして化石になったか、その「古生代のなぞ」を推理してみましょう。

化石は、生物の姿形や進化だけでなく、暮らし方や環境などの情報も伝えてくれているのです。

○ゴホンツノカブト

頭部に1本、胸部に4本の合計5本ものツノをもつ不思議なカブトムシです。しかし、勇ましい外見によらず、性格はおとなしい。タイ・ミャンマー・インド



ゴホンツノカブト

シナ半島など東南アジアの竹林に多く生息しています。

体長は約7cmで、9cmを超えるものもいるようです。成虫での寿命は日本のカブトムシと同じように短く、約1~2ヶ月ですが、現在自然観察館で元気なゴホンツノカブトが見られます。ぜひ、ご覧ください。

■問い合わせ

ふれあいの丘自然観察館 TEL (28) 3 1 3 1

URL <http://www.fureaino-oka.com/shizen/>